

審査意見への対応を記載した書類（7月）

（目次）

医学系研究科 総合保健学専攻（M）

1. 博士前期課程の基盤科目である「リサーチ・スキルズ」について、「〇〇A-1」～「〇〇D-1」と並列的に複数の科目が開講されているが、それぞれの科目において学生がどういった力を身につけることができるのか、その違いや位置付けが必ずしも明確でないため、それらを明確にした記載に改めること。（【2】教育課程等に関する意見）・・・ 2

医学系研究科 総合保健学専攻（M）（D）

2. 博士後期課程の基盤科目である「基盤医科学実習」について、当該科目の演習内容が、博士前期課程において基盤科目として開設されている「基礎医科学実習」における演習内容と同じものであると見受けられるが、博士前期課程と博士後期課程で同じ内容の科目を開設することは不適切であると考えられるため、それぞれの内容の違いについて説明するとともに、必要に応じて、演習内容の見直しを図ること。（【2】教育課程等に関する意見）・・・ 7

医学系研究科 総合保健学専攻（M）（D）

3. 専攻の人材育成の目的として、「医療専門国家資格と情報科学リテラシを有する研究志向の人材育成（ヘルスケアサイエンティスト）」を挙げているが、主に情報科学リテラシを有する人材育成という観点で、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーとの関連性が明確でないため、その関連性について説明すること。（【3】その他）・・・ 10

【2】教育課程等に関する意見 医学系研究科 総合保健学専攻 (M)

博士前期課程の基盤科目である「リサーチ・スキルズ」について、「〇〇A-1」～「〇〇D-1」と並列的に複数の科目が開講されているが、それぞれの科目において学生がどういった力を身につけることができるのか、その違いや位置付けが必ずしも明確でないため、それらを明確にした記載に改めること。

(対応)

リサーチ・スキルズの大学院共通科目としての位置づけ、学生がどのような力を身につけることができるかについて、科目構成や枝番の意味を踏まえて説明を加える。併せてリサーチ・スキルズ C-5 及び C-6 については、当該科目の目的や内容を、よりの確に記述するため、授業科目の概要を修正する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (18 ページ)

下線部は修正・追加箇所

旧	新
<p>「基盤科目」には、プロフェッショナル・リテラシー、リサーチ・スキルズ、<u>生命倫理学、保健医療データ活用法入門 (新設)、保健医療技術概論 (新設)、基礎医科学実習など、倫理性と医療情報科学リテラシに基づく医療管理能力、保健学の専門性と国際的視野などを育成する科目を配する。</u></p>	<p>「基盤科目」には、プロフェッショナル・リテラシー、リサーチ・スキルズを配置する。<u>これらの科目は、名古屋大学の大学院共通科目として開講されている科目であり、リサーチ・スキルズは、外国語で論理的かつ説得力のある学術論文を執筆し、口頭で発表できることを目指している。本組織改編後の博士前期課程の基盤科目としてこれらの科目を配置することにより、国際的競争力を持ったヘルスケアサイエンティストの育成を目指すものである。</u></p> <p><u>なお、科目名に付された A・B・C・D の区分は、それぞれ Thinking Skills, Writing Skills, Speaking Skills, Research Ethics に対応した科目構成となっている。</u></p> <p><u>また、A・B・C の区分に続く枝番の意味は以下のとおりである。</u></p> <p><u>A1～A2：どのように論文にするかを教え、研究論文作成過程において、最も重要な業務を達成できるように導く。</u></p> <p><u>A-1 (①明確に研究の中心テーマについて論述を展開する、②そのテーマを裏付けるための論理的な論を組み立てる)、</u></p>

	<p><u>A-2 (③十分に校正を重ね、テーマの論述と理論を統合させて、論文に仕上げる。)</u></p> <p><u>B1～B2： 学術論文を読むことから書くことへつなげ、学術論文の要約法を組み込み、自身の論文を作成する思考法を身につける</u></p> <p><u>B-1 (基礎的レベル)、B-2 (発展的レベル)</u></p> <p><u>B3～B4： 実際に学会や学術誌に投稿することを念頭においたより実践的な授業</u></p> <p><u>B-3 (基礎的レベル)、B-4 (発展的レベル)</u></p> <p><u>C 1～C 2： 学会発表に特化しない一般的なプレゼンテーションスキル</u></p> <p><u>C-1 (基礎的レベル)、C-2 (発展的レベル)</u></p> <p><u>C 3～C 4： 実践的に国際学会で発表することを念頭においたプレゼンテーションスキル</u></p> <p><u>C-3 (基礎的レベル)、C-4 (発展的レベル)</u></p> <p><u>C 5～C 6： 学生のディスカッションスキルを磨く</u></p> <p><u>C-5 (基礎的レベル)、C-6 (発展的レベル)</u></p> <p><u>その他、生命倫理学、保健医療データ活用法入門 (新設)、保健医療技術概論 (新設)、基礎医科学実習など、倫理性と医療情報科学リテラシに基づく医療管理能力、保健学の専門性と国際的視野などを育成する科目を、基盤科目に配する。</u></p>
--	--

(新旧対照表) 授業科目の概要 (博士前期課程) (5～6 ページ)

下線部は修正・追加箇所

旧	新
<p><リサーチ・スキルズ C-5></p> <p>The main purpose of this course is to <u>help students create longer and more sophisticated research presentations. Lessons will address the content and structure of professional-level academic presentations as well as strategies for</u></p>	<p><リサーチ・スキルズ C-5></p> <p>The main purpose of this course is to <u>introduce students to the content and structure of professional-level academic presentations including discussions as well as strategies for successful delivery, including slide design, speaking style, and</u></p>

successful delivery, including slide design, speaking style, and body language. The course will have an active learning environment, and students will be expected to participate enthusiastically in group work, class discussion, and presentation feedback activities. The instructor will provide guidance and support throughout the presentation design process.

In their presentations, students will make a logical argument about a topic related to their majors or any academic field of interest. They will reference information from at least four academic articles about their topic and critically evaluate claims in their sources. Because students are required to use academic articles as sources, we will also discuss how knowledge is constructed and expressed in these texts. Students will give two presentations: one that introduces their topic and research questions (approximately 5 minutes) and one that contains their complete logical argument (approximately 10 minutes). When giving presentations, students will be expected to use notes rather than reading from a script.

(和訳)

主な目的は、学生がより長く洗練された学術発表をすることである。スライドデザイン、スピーキングスタイル及びボディランゲージを含む成功する発表戦略だけでなく、専門レベルの学術発表の内容と構成も取扱う。アクティブ・ラーニングを取り入れ、学生はグループ活動、クラス討論、プレゼンテ

body language.

The course utilizes a workshop format, in which students will have multiple opportunities to practice giving their presentations at various stages of development. The instructor will provide guidance and support throughout the presentation design process. Aside from student presentations, the class will have an active learning environment, with most class time devoted to discussion of sample presentations. Students will be expected to participate enthusiastically in group work, class discussion, and presentation feedback activities.

(和訳)

本授業の主目的は、研究者レベルの研究発表(ディスカッションも含む)の内容と構造、および発表スライドのデザイン、話し方、ボディランゲージを含む効果的な伝達法を身につけることである。授業はワークショップ形式を採用する。学生は発表作りの様々な段階でプレゼンテーションを練習する多様な

<p>ーション・フィードバック活動に熱心に参加してほしい。教員はプレゼンテーションの製作過程を通して指導、支援をする。学生は授業中2回プレゼンテーションをする。プレゼンテーションでは、学生は各自の専攻あるいは興味関心のある学術的分野に関するテーマについて論理的討論をする。そのテーマについての学術的記事情報を少なくとも4つは参照し、それらのソースに対し批判的に評価する。学生はソースとして学術的記事を使用するので、本文中で知識がどのように構成され表現されているのかについて説明する。</p>	<p>機会を与えられる。教員は研究発表を設計する全過程を通じて、指導と支援を行う。学生によるプレゼンテーション以外にも、本授業は能動的学習を重視する。すなわち、プレゼンテーションについてのディスカッションにほとんどの授業時間は費やされる。学生には、グループワーク、ディスカッション、フィードバックのための活動に積極的に参加することを求める。</p>
<p><リサーチ・スキルズ C-6> <u>Building on Academic Presentations: Principles and Practices I</u>, the main purpose of this course is to help students create longer and more sophisticated research presentations. Lessons will address the content and structure of professional-level academic presentations as well as strategies for successful delivery, including slide design, speaking style, and body language. The course will have an active learning environment, and students will be expected to participate enthusiastically in group work, class discussion, and presentation feedback activities. The instructor will provide guidance and support throughout the presentation design process. In their presentations, students will make a logical argument about a topic related to their majors or any academic field of interest. They will reference information from at least four academic articles about their topic and critically evaluate claims in their sources. Because students are</p>	<p><リサーチ・スキルズ C-6> This course is designed to help students craft an academic presentation that meets standards of international conferences in their fields. Students will be asked to identify target conferences and customize their presentations based on specific length and formatting guidelines. Ideally, students will conclude the course having completed a presentation and proposal abstract that are ready to be submitted for consideration. The course utilizes a workshop format, in which students will have multiple opportunities to practice giving their presentations and conducting discussions at various stages of development. The instructor will provide guidance and support throughout the presentation design process. Aside from student presentations, the class will have an active learning environment, with most class time devoted to discussion of sample presentations. Students will be expected to participate enthusiastically in group work,</p>

required to use academic articles as sources, we will devote an early class to reviewing how knowledge is constructed and expressed in these texts. Students will give two presentations: one that introduces their topic and research questions (approximately 10 minutes) and one that contains their complete logical argument (approximately 20 minutes). When giving presentations, students will be expected to use notes rather than reading from a script.

(和訳)

主な目的は、学生がより長く洗練された学術発表をすることである。スライドデザイン、スピーキングスタイル及びボディーランゲージを含む成功する発表戦略だけでなく、専門レベルの学術発表の内容と構成も取扱う。本授業はアクティブ・ラーニングを取り入れ、学生はグループ活動、クラス討論、プレゼンテーション・フィードバック活動に熱心に参加してほしい。教員はプレゼンテーションの製作過程を通して指導、支援をする。学生は授業中2回プレゼンテーションをする。プレゼンテーションでは、学生は各自の専攻あるいは興味関心のある学術的分野に関するテーマについて論理的討論をする。そのテーマについての学術的記事情報を少なくとも4つは参照し、それらのソースに対し批判的に評価する。学生はソースとして学術的記事を使用するので、本文中で知識がどのように構成され表現されているかについて検討する。

class discussion, and presentation feedback activities.

(和訳)

本授業の目的は、学生それぞれの分野における国際会議の基準を満たす研究発表を組み立てる力を身につけることである。学生は、発表しようとしている会議を明確にし、自分のプレゼンテーションを定められた時間と発表方法の要項にあわせてカスタマイズすることを求められる。授業の仕上げとして、プレゼンテーションを完成させ、発表申込み用のアブストラクトを投稿する段階に達することが目標である。授業はワークショップ形式を採用する。学生には発表作りの様々な段階でプレゼンテーションとディスカッションを練習する多様な機会を与える。教員は研究発表を設計する全過程を通じて、指導と支援を行う。本授業は能動的学習を重視する。すなわち、プレゼンテーションについてのディスカッションにほとんどの授業時間を費やす。学生には、グループワーク、ディスカッション、フィードバックのための活動に積極的に参加することを求める。

【2】教育課程等に関する意見 医学系研究科 総合保健学専攻 (M) (D)

博士後期課程の基盤科目である「基盤医科学実習」について、当該科目の演習内容が、博士前期課程において基盤科目として開設されている「基礎医科学実習」における演習内容と同じものであると見受けられるが、博士前期課程と博士後期課程で同じ内容の科目を開設することは不適切であると考えられるため、それぞれの内容の違いについて説明するとともに、必要に応じて、演習内容の見直しを図ること。

(対応)

基盤医科学実習及び基礎医科学実習の違いをより明確に説明するため、それぞれの授業科目の概要に具体の説明を加えるとともに、コース名を当該科目の内容に則した、より適切な名称に変更する。

(新旧対照表) 授業科目の概要 (博士前期課程) (9 ページ)

下線部は修正・追加箇所

旧	新
<p><基礎医科学実習> 大学院での研究を遂行するに当たり求められる手技や手法を<u>実習形式</u>で学習する。運用されるコースの中から2コース以上を受講することで単位を認定する。</p>	<p><基礎医科学実習> 大学院での研究を遂行するに当たり求められる手技や手法の<u>基礎的知識や解析原理について実習形式</u>で学習する。運用されるコースの中から2コース以上を受講することで単位を認定する。</p>
コース 1 脳磁場計測法 (<u>脳磁計による脳反応測定</u>)	コース 1 脳磁場計測法の <u>基本的原理</u>
コース 2 細胞培養の基本技術	コース 2 細胞培養の基本技術
コース 3 MRI の原理の理解と <u>基本操作実習</u>	コース 3 MRI の原理の理解
コース 4 パラフィン切片標本作製法と免疫染色法	コース 4 パラフィン切片標本作製法と免疫染色法の <u>基本</u>
コース 5 SPSS を用いた統計学実習 (実践編)	コース 5 SPSS を用いた統計学実習 (実践編)
コース 6 DNA 塩基配列解析	コース 6 DNA 塩基配列解析の <u>基本</u>
コース 7 レーザー共焦点顕微鏡を用いた <u>生体分子の観察</u>	コース 7 レーザー共焦点顕微鏡の <u>基本操作</u>
コース 8 実験動物を用いた毒物動態解析法	コース 8 実験動物を用いた毒物動態解析法の <u>基本</u>
コース 9 SDS-PAGE, Western blotting 解析	コース 9 SDS-PAGE, Western blotting 解析法の <u>基本</u>
コース 10 リンパ球機能解析 : <u>ELISPOT 法</u>	コース 10 リンパ球機能解析の <u>基本</u>
コース 11 生体情報計測手法とその解析	コース 11 生体情報計測手法の <u>基本</u>

コース 12 NGS データを用いた腸内細菌メタゲノム解析	コース 12 NGS データを用いた腸内細菌メタゲノム解析の <u>基本</u>
コース 13 ゲノムワイド関連解析による新規疾病関連遺伝子の探索手法	コース 13 ゲノムワイド関連解析による新規疾病関連遺伝子の探索手法の <u>基礎</u>
コース 14 マウスジェノタイプリング手法	コース 14 マウスジェノタイプリング手法の <u>基礎</u>
コース 15 マウス胎仔肝臓細胞からの巨核球分化誘導	コース 15 マウス胎仔肝臓細胞からの巨核球分化誘導法の <u>基本</u>

(新旧対照表) 授業科目の概要 (博士後期課程) (39 ページ)

下線部は修正・追加箇所

旧	新
<p><基盤医科学実習> <u>大学院での研究に必要な技術や手法を実習形式で学習する。開講されるプログラムの中から4コースを受講することで2単位を認定する。</u></p>	<p><基盤医科学実習> <u>実際の研究に用いる高度かつ最新の技術や手法についてマンツーマンの指導形式を中心とした技術修得型実習形式で学習する。開講されるコースの中から4コースを受講することで2単位を認定する。</u></p>
コース 1 <u>脳磁場計測法 (脳磁計による脳反応測定)</u>	コース 1 <u>脳磁計による脳反応測定</u>
コース 2 細胞培養の <u>基本技術</u>	コース 2 細胞培養の <u>実際</u>
コース 3 MRI の <u>原理の理解と基本操作実習</u>	コース 3 MRI の基本操作実習
コース 4 パラフィン切片標本作製 <u>法</u> と免疫染色法	コース 4 パラフィン切片標本作製と免疫染色法の <u>実際</u>
コース 5 SPSS を用いた統計学実習 (<u>実践編</u>)	コース 5 SPSS を用いた統計学実習 (<u>応用編</u>)
コース 6 DNA 塩基配列解析	コース 6 DNA 塩基配列解析の <u>実際</u>
コース 7 レーザー共焦点顕微鏡を用いた生体分子の観察	コース 7 レーザー共焦点顕微鏡を用いた生体分子の観察
コース 8 実験動物を用いた毒物動態解析 <u>法</u>	コース 8 実験動物を用いた毒物動態解析の <u>実際</u>
コース 9 SDS-PAGE, Western blotting 解析	コース 9 SDS-PAGE, Western blotting 解析の <u>実際</u>
コース 10 リンパ球機能解析: ELISPOT 法	コース 10 リンパ球機能解析: ELISPOT 法
コース 11 生体情報計測手法とその解析	コース 11 生体情報計測手法とその解析の <u>実際</u>
コース 12 NGS データを用いた腸内細菌メタゲノム解析	コース 12 NGS データを用いた腸内細菌メタゲノム解析の <u>実際</u>
コース 13 ゲノムワイド関連解析による新規	コース 13 ゲノムワイド関連解析による新規

<p>疾病関連遺伝子の<u>探索手法</u></p> <p>コース 14 マウスジェノタイピング手法</p> <p>コース 15 マウス胎仔肝臓細胞からの巨核球分化誘導</p>	<p>疾病関連遺伝子の<u>実際</u></p> <p>コース 14 マウスジェノタイピング手法の<u>実際</u></p> <p>コース 15 マウス胎仔肝臓細胞からの巨核球分化誘導の<u>実際</u></p>
--	--

【3】その他) 医学系研究科 総合保健学専攻 (M) (D)

専攻の人材育成の目的として、「医療専門国家資格と情報科学リテラシを有する研究志向の人材育成 (ヘルスケアサイエンティスト)」を挙げているが、主に情報科学リテラシを有する人材育成という観点で、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーとの関連性が明確でないため、その関連性について説明すること。

(対応)

ヘルスケアサイエンティストの育成の観点からディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーとの関連性について明確にするため、説明を加える。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (9~10 ページ)

下線部は修正・追加箇所

旧	新
<p>(2) 専攻の人材育成の目的</p> <p>本組織改編では、保健学領域の研究への情報科学の取り入れが必須となる技術的社会的変化を好機として、現行3専攻の専門職研究中心の大学院体制を1専攻化し、横断的研究・融合的研究及び情報科学を基盤とした保健医療研究を推進する人材を育成する。「医療専門国家資格と情報科学リテラシを有する研究志向の人材育成 (ヘルスケアサイエンティスト)」が目的である。</p>	<p>(2) 専攻の人材育成の目的</p> <p>本組織改編では、保健学領域の研究への情報科学の取り入れが必須となる技術的社会的変化を好機として、現行3専攻の専門職研究中心の大学院体制を1専攻化し、横断的研究・融合的研究及び情報科学を基盤とした保健医療研究を推進する人材を育成する。「医療専門国家資格と情報科学リテラシを有する研究志向の人材育成 (ヘルスケアサイエンティスト)」が目的である。</p> <p><u>現在では、本専攻のディプロマ・ポリシーに定める保健学及び医療情報科学に基づく研究を推進する人材の育成には、情報科学の知識は必須となりつつある。このため、ヘルスケアサイエンティスト養成のためには、情報科学リテラシ教育および融合的研究推進が基盤となった教育研究体制が必要である。</u></p> <p><u>カリキュラム・ポリシーにおいて情報科学教育を強化した教育研究体制をとることで、次世代情報化社会に対応する横断的研究・融合的研究を推進し、情報科学を基盤とした研究力を有する人材を育成する教育課程とする。</u></p> <p><u>博士前期課程では、全ての学生が受講可能な専門科目Ⅰのコース共通科目「生命情報学特論」、専門科目Ⅱのコース共通科目「生命情報学実習」を設け、最新の情報科学研究の基礎知識とその応用を学修する。博士後期課程においてもコース共通科目「先端生命情報</u></p>

<p>加えて、保健医療分野における研究推進の基盤的技術となる情報科学研究分野を取り入れることで、他の専門職養成機関には無い教育研究体制をとる。医療専門職資格を持ちながら医療情報科学に通じ、職種カテゴリーの枠を越えて活躍する次世代の問題解決に特化した医療専門職と研究者の輩出を考えている。</p>	<p><u>学特講」にて各研究における情報科学研究手法の利用や共同研究の端緒となる最新知見が教授される。これらのカリキュラム構成によって情報科学リテラシから最新の情報解析手法を基盤知識として学ぶ体制としている。「保健医療と情報科学の知識を有する人材」は応用範囲広い研究と次世代における幅広い分野での活躍が期待できる（資料1）。</u></p> <p><u>個々の専門領域研究においても、保健医療分野における研究推進の基盤的技術となる情報科学研究分野を取り入れることで、他の専門職養成機関には無い教育研究体制をとる。医療専門職資格を持ちながら医療情報科学に通じ、職種カテゴリーの枠を越えて活躍する次世代の問題解決に特化した医療専門職と研究者の輩出を考えている。</u></p>
---	---

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (14～17 ページ) 下線部は修正・追加箇所

旧	新
<p>【博士前期課程】 ・修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>①育成する人材像（教育目標）：<u>科学的論理性と倫理性・人間性に富み、国際的視野を持ち、豊かな想像力と使命感を持って保健学研究及び保健医療を推進する人を育てる。</u></p> <p>②取得学位に対応した専門科目の履修：入学者は、基盤科目（4単位以上）とともに取得学位に対応した専門科目を履修し、専門領域の研究指導に関する専門科目Ⅱ、特別研究（10単位）とともに合計30単位以上を履修する。</p> <p>③卒業、修了判定時に課している基準（必要要件）：原則として2年以上在学し、所定の授業科目を30単位以上修得し、</p>	<p>【博士前期課程】 ・修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>①育成する人材像（教育目標）：<u>科学的論理性と倫理性・人間性に富み、国際的視野ならびに豊かな想像力と使命感を持ち、保健学及び医療情報科学に基づく研究と保健医療を推進する人を育てる。</u></p> <p>②取得学位に対応した専門科目の履修：入学者は、基盤科目（4単位以上）とともに取得学位に対応した専門科目を履修し、専門領域の研究指導に関する専門科目Ⅱ、特別研究（10単位）とともに合計30単位以上を履修する。</p> <p>③卒業、修了判定時に課している基準（必要要件）：原則として2年以上在学し、所定の授業科目を30単位以上修得し、</p>

主論文を提出して最終試験に合格する必要がある。教育目標と基準に沿った資質・能力を満たした者に修了を認め、修士の学位を授ける。科学的論理性と倫理性・人間性に富み、豊かな想像力と使命感を持って保健学研究及び高度の保健医療を推進できることを要件とする。

- ④修士学位論文の審査基準並びにその体制：論文又は特定の課題についての研究成果の内容を中心として学識及び研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力について、本研究科等の複数の教員から構成される学位審査委員会により客観的かつ厳正に審査する。なお、学位審査の透明性を担保するため、学位審査委員会の主査は、指導教員以外の教員とする。

・教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

博士前期課程は、学部からの情報科学教育に基づく医療情報科学研究の推進、社会人及び既卒学生への情報科学教育を開放科目として開講、国際的競争力を持った研究者教育を目指す方針である。そのために、社会人大学院生や他大学からの入学者の受講を考慮した医療情報科学科目、国際研究者育成のためのマルチリンガル、リサーチ・スキルズ科目を設け、基盤科目及び専門科目Ⅰ、Ⅱ、特別研究において1専攻

主論文を提出して最終試験に合格する必要がある。教育目標と基準に沿った資質・能力を満たした者に修了を認め、修士の学位を授ける。科学的論理性と倫理性・人間性に富み、豊かな想像力と使命感を持って保健学研究及び高度の保健医療を推進できることを要件とする。

- ④修士学位論文の審査基準並びにその体制：論文又は特定の課題についての研究成果の内容を中心として学識及び研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力について、本研究科等の複数の教員から構成される学位審査委員会により客観的かつ厳正に審査する。なお、学位審査の透明性を担保するため、学位審査委員会の主査は、指導教員以外の教員とする。

本組織改編では博士前期課程での取得学位に変更はない。次世代の情報化社会において保健学及び医療情報科学に基づく研究と保健医療を推進する人材育成を行うため、履修科目に情報科学科目を取り入れ、情報科学リテラシーを習得させる内容とした。(資料8)

・教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

博士前期課程は、学部からの情報科学教育に基づく医療情報科学研究の推進、社会人及び既卒学生への情報科学教育を開放科目として開講、国際的競争力を持った研究者教育を目指す方針である。そのために、社会人大学院生や他大学からの入学者の受講を考慮した医療情報科学科目、国際研究者育成のためのマルチリンガル、リサーチ・スキルズ科目を設け、基盤科目及び専門科目Ⅰ、Ⅱ、特別研究において1専攻

による柔軟な領域横断的科目履修と研究手法習得を可能とする。また、選択コースの充実による高度化する医療への高度医療専門職人材の育成（トータルヘルスプランナーコース、医学物理士コース、専門看護師コース等）を推進する。

・入学者受入れ・選抜の方針（アドミッション・ポリシー）

①入学者受入れの方針：医学系研究科（保健学）の博士前期課程では、未来の「勇気ある知識人」を目指す人、保健学領域における研究を推進する人材を求める。また、研究意欲と能力のある高い実務経験を有する社会人も受け入れる。受入れに際しては、保健学領域に関する専門的学力、それを活用・発展する能力、倫理性、国際的視野に立つ研究意欲を適正に評価して、選抜する入試を実施する。

②取得学位に対応したコース指定により受験：博士前期課程の入学選抜試験実施時には取得学位（修士（看護学）、修士（医療技術学）、修士（リハビリテーション療法学）のいずれか）に対応したコースを指定して受験をする。

による柔軟な領域横断的科目履修と研究手法習得を可能とする。また、選択コースの充実による高度化する医療への高度医療専門職人材の育成（トータルヘルスプランナーコース、医学物理士コース、専門看護師コース等）を推進する。

上記に加え、博士前期課程では、全ての学生が受講可能な専門科目Ⅰのコース共通科目「生命情報学特論」、専門科目Ⅱのコース共通科目「生命情報学実習」を設け、情報科学リテラシ教育を強化する。博士前期課程では、最新の情報科学研究の基礎知識とその応用を学修することで、アカデミア、関連企業、官公庁など、いずれの進路をとる学生にとっても次世代の情報社会に必須な情報科学に関する基盤知識を学修できる体制をとる。

・入学者受入れ・選抜の方針（アドミッション・ポリシー）

①入学者受入れの方針：医学系研究科（保健学）の博士前期課程では、未来の「勇気ある知識人」を目指す人、保健学領域における研究を推進する人材を求める。また、研究意欲と能力のある高い実務経験を有する社会人も受け入れる。受入れに際しては、保健学領域に関する専門的学力、それを活用・発展する能力、倫理性、国際的視野に立つ研究意欲を適正に評価して、選抜する入試を実施する。

②取得学位に対応したコース指定により受験：博士前期課程の入学選抜試験実施時には取得学位（修士（看護学）、修士（医療技術学）、修士（リハビリテーション療法学）のいずれか）に対応したコースを指定して受験をする。

③選抜の基本方針：一般選抜では、大学を卒業（見込み）した者等を対象とする。社会人特別選抜では、一般選抜に該当する者に加え、保健医療分野等において一定の専門的な実務経験を有し、入学後もその身分を継続する者を対象とし、リカレント教育を担保する。提出書類による、保健学領域に関する研究意欲と研究能力を評価する。また、英語による学力試験と面接・口述試験を実施し、科学英語の基礎的読解力、保健学領域における専門的な学力及び倫理性などを総合的に判断する。

【博士後期課程】

・修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

①育成する人材像（教育目標）：科学的論理性と倫理性・人間性に富み国際的視野と高度の専門性を持ち、独創性と自律性を持って保健学研究及び保健医療を牽引する人を育てる。

②取得学位に対応した専門科目の履修：入学者は、取得学位に対応した専門科目及び特別研究を取得し合計8単位以上を履修する。

③卒業、修了判定時に課している基準（必要要件）：原則として3年以上在学し、所定の授業科目を8単位以上修得し、主論文を提出して最終試験に合格する必要がある。教育目標と基準に沿った資質・能力を満たした者に修了を認め、博士の学位を授ける。科学的論理性と倫理性・人間性に富み、高度の専門性、独創性と自律性を持って保健学領域の研究及び保健医療を牽引できることを要件

③選抜の基本方針：一般選抜では、大学を卒業（見込み）した者等を対象とする。社会人特別選抜では、一般選抜に該当する者に加え、保健医療分野等において一定の専門的な実務経験を有し、入学後もその身分を継続する者を対象とし、リカレント教育を担保する。提出書類による、保健学領域に関する研究意欲と研究能力を評価する。また、英語による学力試験と面接・口述試験を実施し、科学英語の基礎的読解力、保健学領域における専門的な学力及び倫理性などを総合的に判断する。

【博士後期課程】

・修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

①育成する人材像（教育目標）：科学的論理性と倫理性・人間性に富み国際的視野と高度の専門性ならびに独創性と自律性を持ち保健学及び医療情報学に基づく研究及び保健医療を牽引する人を育てる。

②取得学位に対応した専門科目の履修：入学者は、取得学位に対応した専門科目及び特別研究を取得し合計8単位以上を履修する。

③卒業、修了判定時に課している基準（必要要件）：原則として3年以上在学し、所定の授業科目を8単位以上修得し、主論文を提出して最終試験に合格する必要がある。教育目標と基準に沿った資質・能力を満たした者に修了を認め、博士の学位を授ける。科学的論理性と倫理性・人間性に富み、高度の専門性、独創性と自律性を持って保健学領域の研究及び保健医療を牽引できることを要件

とする。

④博士學位論文の審査基準並びにその体制：博士後期課程で作成された主論文が、査読制度のある優れた国際的な専門学術雑誌へ筆頭著者として掲載（受理）されること、さらに論文の内容、これに関連ある専門分野の学識及び研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するために必要な高度の研究能力について、本研究科等の複数の教員から構成される学位審査委員会により、公開予備審査会によって国際的な標準性を踏まえ客観的かつ厳正に審査する。尚、学位審査の透明性を担保するため、学位審査委員会の主査は指導教員以外の教員とする。

・教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

医学系研究科（保健学）は、「科学的論理性と倫理性・人間性に富み、国際性視野と高度の専門性を持ち、独創性と自律性を持って保健学領域における研究及び保健医療を牽引する人を育てる」ことを博士後期課程の大学院教育の基本方針とする。名古屋大学の教育目的と学位に照らして設定した「科学的探究心」、「高度の専門性」、「独創性と自律性」、「国際水準の研究」

とする。

④博士學位論文の審査基準並びにその体制：博士後期課程で作成された主論文が、査読制度のある優れた国際的な専門学術雑誌へ筆頭著者として掲載（受理）されること、さらに論文の内容、これに関連ある専門分野の学識及び研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するために必要な高度の研究能力について、本研究科等の複数の教員から構成される学位審査委員会により、公開予備審査会によって国際的な標準性を踏まえ客観的かつ厳正に審査する。尚、学位審査の透明性を担保するため、学位審査委員会の主査は指導教員以外の教員とする。

本組織改編では博士後期課程での取得学位に変更はない。次世代の情報化社会における先端的研究を推進する上で、情報科学の研究手法および知識の習得は必須である。博士後期課程においても、最新の情報科学研究を教授する科目を設定し、情報科学研究を推進できる人材育成を強化する内容とした。（資料9）

・教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

医学系研究科（保健学）は、「科学的論理性と倫理性・人間性に富み、国際性視野と高度の専門性を持ち、独創性と自律性を持って保健学領域における研究及び保健医療を牽引する人を育てる」ことを博士後期課程の大学院教育の基本方針とする。名古屋大学の教育目的と学位に照らして設定した「科学的探究心」、「高度の専門性」、「独創性と自律性」、「国際水準の研究」

<p>を教育目標に置き、次の方針に沿って教育課程を編成し、医学系研究科（保健学）の特徴に基づく教育実践と研究指導を行う。</p>	<p>を教育目標に置き、次の方針に沿って教育課程を編成し、医学系研究科（保健学）の特徴に基づく教育実践と研究指導を行う。</p> <p><u>上記に加え、博士後期課程では、「先端生命情報学特講」を設け、保健医療分野における情報科学研究を推進する研究指導体制とする。また、博士後期課程では、各領域の研究に情報科学の手法や技術を取り入れることで国際水準の研究を推進する人材育成を目指す。</u></p>
--	---